

3-4. 運営事業

3-4-1. 事務事業評価シート

事務事業評価シート

H 27 年度

事務事業名	運営事業			総合計画 個別施策 コード/名	2415	予科練平和記念館の充実
新規・継続	継続	事業開始年度	H21	担当課	予科練平和記念館	
根拠法令等	なし					

1. 事業の概要

【事業内容】

予科練平和記念館の常設展示のチケット販売、来館者の問合せや展示解説業務及び展示の監視を行う常設展示の通常業務。

【成果目的】

来館者の満足度、理解度の向上。

2. 活動指標と成果指標

指標名	単位	説明	H25	H26	H27	H28	
			目標	目標	目標	目標	
活動指標	開館日数	日	年間開館日数	300	300	307	308
				実績	実績		
				303	309		
成果指標	来館者数	人	年間の来館者数	70,000	70,000	70,000	70,000
				60,670	58,850		
	観覧料	円	年間の観覧料	20,000,000	22,000,000	22,000,000	22,000,000
				21,714,807	19,828,403		

3. 事業費の内訳とコスト分析

(1) 歳出内訳

H25年度(決算)	H26年度(決算)	H27年度(予算)
11,347,885	10,211,470	8,869,000

(2) 歳入

H25年度(決算)	H26年度(決算)	H27年度(予算)

歳入内容:

	[種別]	[金額]	[内容]
決算 内訳	報酬	9,679,800	館長及び展示解説員報酬
	需用費	125,770	事務用消耗品
	旅費	405,900	展示解説員旅費

(3) 人件費(時間)

	H25年度		H26年度	
	時間数	人件費概算	時間数	人件費概算
正職員(時間内)	2,138	3,743,638	1,787	3,129,037
正職員(時間外)	204	446,505	75	164,156
臨時職員		0		0
その他				
合計	2,342	4,190,143	1,862	3,293,193

(4) 町民1人当たりコスト (事業費+人件費-歳入)

	H25年度(決算)	H26年度(決算)
事業費	11,347,885	10,211,470
人件費	4,190,143	3,293,193
小計	15,538,028	13,504,663
歳入	0	0
計	15,538,028	13,504,663
町民1人当たり	約 324円	約 281円

4. 事業の方向性と取組方針

▼担当者記入

2~3の考察と課題、改善計画

・職員研修や情報提供、共有化により、展示解説員の接遇や知識の向上を図ることで、来館者の満足度、理解度を深め、リピーターの増加につなげていく。

▼課長記入

【方向性・業務改善】	理由
将来的な方向性	来館者の満足度を高め、来館者数を増やしていく。
拡大して継続	
業務改善	職員及び展示解説員に対して、接遇や知識の向上を図っていく。
一部改善	

【取組方針】 ※いつまでに、どんな状態にするか。そのために今年度は何をするか。

平成28年3月までに、職員及び展示解説員の研修を実施する。

3-4-2. 委員会における評価と指摘事項

※分数は全委員のうち妥当であると評価した委員の数を示す

※「○」は「妥当である」、「×」は「妥当でない」を示す

委員会としての評価		補足
目的に対する手段	6/6 → ○	
活動指標	3/6 → ○	
成果指標	2/6 → ×	<ul style="list-style-type: none"> ・満足度をはかる指標を設定すべき。 ・教育の目的に対する指標を設定すべき。
方向性	5/6 → ○	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を一本化すべき。 ・常設展示物の充実と工夫が必要。 ・観覧料で事業費をまかなえないか。 ・雄翔館と統合(連携)すべき。
業務改善	4/6 → ○	<ul style="list-style-type: none"> ・外部からの観覧者を増やす企画の考案があると良いのでは。 ・特別会計にすべき。 ・収支を明らかにすべき。 ・より具体的な記載をお願いしたい。 ・研修費を減らす。 ・常設展示を充実させる。
取組方針 (改善方針)	3/6 → ○	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の研修よりも、展示物を文章あるいはイヤホンで説明することを検討してはどうか。

ヒアリングにおける主な指摘事項

- ・この事業だけ取り出すのではなく、予科練平和記念館全体の経費も出さないと判断できない。
- ・教育委員会の施設としての目的から考えれば赤字でも仕方ないが、観光施設として捉えると収益性も考慮すべき。一番望ましいのは、公益社団法人にすることだが、例えば特別会計にはできないか。今のままだと一般会計に紛れてしまう。
- ・接客マナーや知識の向上は必要だが、それだけで来館者が増えるとは思えない。リピーターを増やすには効果的だが、新しいお客様を開拓していくには、それなりの施策が必要だと思う。活動指標からも読み取れない。
- ・細分化されていて、一連のものが別の事業となっている。
- ・この事業の目的が「来館者の満足度」なのだから成果指標は「満足度」にしなければならない。来館料や来館者数という成果指標では、目的を反映していない。満足度が上がれば来館者数が増えるという論理はあるかもしれないが、満足度を上げるのならば満足度が分かる指標にしなければならない。
- ・特別展や企画展が別事業である以上は、この事業で行うことは、職員の接客によって満足度を上げ、結果として来館者数を増やすというものに尽きるだろう。それが、事業内容、成果目的、成果指標で筋が通っていなければならない。取組方針もずれてしまう。
- ・事務事業評価シートとして収入が無いことになっているから、評価しづらい。
- ・観覧料が入っているのに歳入がゼロというのは、町民の感覚としておかしい。運営は観覧料で賄うのが普通だろう。
- ・職員の技量の向上を目指すというのが主な内容のようだが、解説員がいくら良くても、それだけでは入ってこない。展示物の前にいるとイヤホンで聞けるものを使っている博物館もある。
- ・アンケートは任意で書いてもらっているとのことだが書く人は少ないだろう。アイデアを絞るしかない。例えば、アンケートを出せば次回来館料100円引き、ただし期間限定という例もある。
- ・予科練平和記念館の目的について、教育委員会としての目的が先ほど説明されたが、その目的に応じた来館者数の数が資料から分からない。小中学生の人数など、平和の教育に対して予科練平和記念館がどれだけ役に立っているか、証明するような数値が無いと分からない。

ヒアリングシート自由記載

- ・とても良い活動だと思います。
- ・来館者数増加対策が不明確。
- ・観覧者の増加は、展示物の質と量の充実、観覧料で決まる。

3-4-3. 担当課による対応方針

平成27年度 外部評価結果に対する対応方針

事業名	運営事業	担当課	教育委員会予科練平和記念館
-----	------	-----	---------------

1. 目的に対する手段

目的に対する手段	外部評価結果	妥当である	事業内容の見直し:	無し
	担当課の考え方	妥当であるとの評価を得たため、現行の事業内容を維持する。		

2. 指標

活動指標	外部評価結果	妥当である	活動指標の見直し:	無し	※有りの場合は翌年度の事務事業評価に反映			
	現行	開館日数	回	年間開館日数	H25	H26	H27	H28
					300	300	307	308
	来年度	開館日数	回	年間開館日数	H25	H26	H27	H28
				300	300	307	308	
担当課の考え方	妥当であるとの評価を得たため現行とおりにする。							

成果指標	外部評価結果	妥当でない	成果指標の見直し:	有り	※有りの場合は翌年度の事務事業評価に反映			
	現行	来館者数	人	年間の来館者数	H25	H26	H27	H28
					70,000	70,000	70,000	70,000
	来年度	来館者数	人	年間の来館者数	H25	H26	H27	H28
観覧料		円	年間の観覧料	20,000,000	22,000,000	22,000,000	22,000,000	
来年度	満足率	%	来館者の満足度の割合		78	80	82	
	満足率	%	来館者の満足度の割合		78	80	82	
担当課の考え方	満足度をはかる指標を設定すべきという意見があったため、新たに来館者の満足度を示す指標を設定する。平成26年度に実施した来館者へのアンケート調査の結果で、展示内容に対して満足と回答した割合を指標とした。							

3. 事業の方向性

方向性	外部評価結果	妥当である	現行の方向性 他事業と統合	方向性の見直し (見直し後の方向性)	無し
	担当課の考え方	妥当であるとの評価を得たので、今後來館者を増やすため、展示の改善、企画展や戦争体験者の講演会など充実を図っていく。			
業務改善	外部評価結果	妥当である	現行の業務改善 一部改善	業務改善の見直し (見直し後の業務改善)	無し
	担当課の考え方				

4. 取組方針

取組方針 (改善方針)	外部評価結果	妥当でない	取組方針の見直し 有り
	現行の取組方針	<p>【評価結果を踏まえた今後の取組方針】</p> <p>運営事業としては、職員や展示解説員に対して研修を実施し、接遇の向上と予科練さらに土浦海軍航空隊などについて知識を向上させる。また、来館者を増やす方策としては、展示の充実や様々なイベントの企画など記念館全体の施策として進めていく。委員から提案のあったイヤホンガイドについては導入経費が相当要すると思われる。また、現在館内では音声を流して説明も行っているため今後の検討課題とする。</p>	